

自己点検・自己評価報告書

2023年5月1日現在

エール学園 日本語教育学科

2023年7月1日作成

教育目標と本年度の重点目標の評価成果

学校の教育理念・目標	2022 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策						
<p>■なりたい自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が与えられた人生の役割に生きるために、教職員の強みを把握して意欲を高めて成果を得る。まず教職員が生き方の姿勢を示したうえで学生たちに学園の「なりたい自分」の理念を伝える。 <p>■つくす自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな世界で学園の強みを使命として自覚し、教職員・学生が顧客や地域を支援できる学園となる。そして「つくす自分」の理念を実践することによって学園全体の意欲を醸成して成果を得る 	<p>■なりたい自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ●時代の変化に対応するため、教職員は学生の夢の実現を実践するとともに、メンタリングシステムの深堀とベトナムの大学との教育連携の強化と新専門学校への立ち上げの支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・東大・京大・阪大に 20 名の合格者国公立に 150 名の合格者を出す。上場企業に 25 名就職させる。 ・教職員はメンタリングシステムを強化し、日本語力を強化し、N1 相当 30%、N2 相当 50%、N3 相当 30%にする。 ・ベトナムの大学との教育連携を強化すると共に国内外の公開模擬試験 2000 名にする。 ・新専門学校設立を推進する。 <p>■つくす自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバルな世界で学園の強みを使命として自覚し、学園全体の意欲を醸成してブランド力を高め、成果として、学生を「平和の使者」（地域・母国・世界の架け橋人財）に育成して、社会に貢献する。 ・ボランティアワークを 100 件集めて、地域のエール学園ファンを増やす。ボランティア活動を通して学生の他者支援力を育成し、「平和の使者」の卵を育てる。 ・学園全体の出席率を 9.6% にして、顧客に喜んでいただく。 ・ベトナムでのボランティアワークとして GLOBAL TALENT & BUSINESS MEETUP を充実させ、優秀な大学とのネットワークを強化する。 	<p>2022 年度はコロナ禍の影響がようやく終息に向かい留学生の来日が再開され、本校も 6 月から全面对面授業を再開した。また学校行事、外部のボランティア活動もようやく再開が可能となった。</p> <p>■なりたい自分</p> <p>進学実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大・京大・阪大 4 名合格 ・国公立 5.3 名合格 <p>就職実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上場会社 11 名内定。 ・就職内定者 152 名（内定率 92.7%）3 月末 ※未内定者ゼロは 2023 年 6 月に達成 <p>就職系学科日本語能力試験結果 N1 5.6% N2 40.1% N3 41.6%</p> <p>公開模試受験結果（外部受験者） EJU 模試 1541 人 JLPT 模試 178 人 新専門学校設立はエール学園 ICT 校の認可申請を実施。私学審議会にて「適当」の判断をいただいた。</p> <p>■つくす自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアワークは 146 件実施。ようやくコロナが終息し、本格的な活動が再開された。 ・各学科の出席率の結果 <table border="1" data-bbox="1144 938 1406 1018"> <tr> <td>就職系学科</td> <td>91.8%</td> </tr> <tr> <td>応用日本語学科</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>日本語教育学科</td> <td>94.0%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の大学との交流会実績 <ul style="list-style-type: none"> ①ABC プラットフォームを活用した 2 か月に 1 回の定例イベントを実施し、ベトナム、インドネシア、ネパールの教育機関と産官学交流を実施。（オンライン実施） ② GLOBAL TALENT & BUSINESS MEETUP は 12 月 15 日に実施し、行政 15 団体、企業 188 社、学校関係 16 校、卒の多合わせて 239 団体の参加で盛況に実施。 	就職系学科	91.8%	応用日本語学科	90.7%	日本語教育学科	94.0%	<p>■なりたい自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は成果達成状況が厳しいので、優秀な学生を集める対策を練って課題解決を図る。特にベトナム等の優秀な大学、高校との提携協定を活用して目標達成に努める。 ・日本語力の強化については、就職系学科では最低 N3 がないと就職できないので、その対策が進んでいる。進学系学科は EJU と JLPT の二つの試験が年それぞれ 2 回あり、その集計に苦心している。団体受験の活用も始めているので、受験率アップの強化が必要。 ・公開模試は JLPT の N1N2、EJU をそれぞれ年 2 回を国内、海外ともに実施。順調に定着をしてくれている。海外では N3 の要望も出ているので、次年度以降で対応する予定。 <p>■つくす自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアワークは目標を大きく上回る結果で、次年度以降も大きく広がっていくことが予想される。これはこの延長で進めていきたい。 ・各学科の出席はコロナの状況での出席に慣れた学生たちが急遽全面登校となり、その行動の変化に対応できない学生などがあり、やや低くなっていると思う。次年度は本格的に 4 月より全面登校となっているので、初期より指導を強化することが必要。 ・海外の大学との交流はオンラインの活用も含めて従来ベトナムに絞ってきたものが、インドネシア、ネパールと広がりを見せたので、これを引き続き続けることが肝要である。
就職系学科	91.8%								
応用日本語学科	90.7%								
日本語教育学科	94.0%								

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

目 次

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	1	基準4 教育成果---日本語教育学科	25
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	26
1-2 学校の特色はなにか	4	4-19 資格取得率の向上が図られているか	27
1-3 学校の将来構想を抱いているか	5	4-20 退学率の低減が図られているか	28
		4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	29
基準2 学校運営	6	基準5 学生支援---日本語教育学科	30
2-4 運営方針は定められているか	7	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	31
2-5 事業計画は定められているか	8	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	32
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	9	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	33
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	10	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	34
2-8 意思決定システムは確立されているか	12	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	35
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	13	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	36
		5-28 保護者と適切に連携しているか	37
基準3 教育活動---日本語教育学科	14	5-29 卒業生への支援体制はあるか	38
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	15	基準6 教育環境	39
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	16	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	40
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	17	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	41
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	18	6-32 防災に対する体制は整備されているか	42
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか	19	基準7 学生の募集と受け入れ	44
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	20	7-33 学生募集活動は、適正に行われているか	45
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	23	7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	46
3-17 資格取得の指導体制はあるか	24	7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	47
		7-36 学納金は妥当なものとなっているか	48

基準 8 財務	49
8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	50
8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	51
8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか	52
8-40 財務情報公開の体制整備はできているか	53
基準 9 法令等の遵守	54
9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	55
9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	56
9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	57
9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか	58
基準 10 社会貢献--本部部分	59
10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	60
10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	62
基準 10 社会貢献—教育現場部分	63
10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	64
10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	66

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>第一世代の理念では学園が学校法人としてスタートする1976年に経営理念、教育理念を作成した。</p> <p>経営理念は設置者である長谷川フサの長年の生き様を表した言葉にした。彼女が常々に語っていた言葉は「資産の蓄積」「苦勞の蓄積」「信用の蓄積」である。この言葉を活かして経営理念を作成した。それが次の言葉である。</p> <p>経営理念「誠実・情熱・創造」。一方教育理念は当時専務理事であった長谷川恵一が次のような人材を育てたいという想いで理念を掲げた。「哲学者たれ・自己をクリエイトできる人材たれ・大きな視野で世界に羽ばたける人材たれ」</p> <p>続いて1985年に「未来プロジェクト」を発足させ未来のエールの方向性を探り国際化を進めることとなり、外なる国際化として1988年オーストラリア校の設立、内なる国際化として1989年に日本語学校を設立した。</p> <p>第二世代の理念では、学園の風土が国際化しだし、新しい事業理念の構築の検討に入りだし、1994年に超長期計画を策定した。その中心テーマを「高めあえる関係をつくる人材育成事業」とし、2012年まで18年間でこの事業理念を定着させることとした。</p> <p>国際化は特にアジア地域の発展と共に、日本語学校が順調に成長し、学園全体を支えられる部門に発展した。と同時に専門学校での留学生に対する専門教育が定着しこの部門も大きな発展を遂げた。</p> <p>第三世代の理念では、学園の国際化が完全定着した段階で留学生が地域社会と強く関わる必要性を感じ出し、地域社会との関係性を一層強化する理念の再構築を試みることになった。2006年、2007年にかけて今回は学園あげて取り組み、ミッション・ビジョン・バリュー・行動指針を作り上げた。特にミッション・ビジョン・バリューは本部長以上で作成し、行動指針はこれらの理念に基づいて職員全員に行動指針を提案していただき、700ほどの提案の中から21項目を選び出し、実践結果を朝礼で全職員が話している。</p>	<p>第三世代の理念</p> <p>ミッション お互いが共に活かし合い、高めあって生きていけるような共生共創社会を創造できる人材を育成することを使命とする</p> <p>ビジョン 学校を取り巻く地域社会の人々と積極的に交わり、地域の人々に自ら奉仕することによって「有難う」という言葉が飛び交う地域づくり学校づくりを目指す</p> <p>バリュー 自己実現することによって成長するという価値を大切にする 他者支援することによって成長するという価値を大切にする</p> <p>行動指針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、多くの知識を獲得することによる成長＝知力 2、感性（五感）を磨くことによる成長＝感力 3、己の行動力を高めることによる成長＝行力 4、志を達成することによる成長＝活力 5、場の持つエネルギーを活用することによる成長＝場力 <p>各項目の中に4から5項目の内容があるが別紙に掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらの理念に沿って人材育成をしている。 ・これらは年度事業計画に印刷されているのと名刺に印刷されている。 ・特に行動指針は行動レベルのことが書かれているので分かりやすく、共感しやすい。 ・これら理念を年度事業計画に落としているので、理念と目標は整合している ・目標は計画として数値化するように心がけ達成できるように努力している ・学生の成長を5つの観点から捉えているので、受験教育、経営教育、語学教育、メンタリング教育の分野で学生はたくましく育つ

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
---------------	-----------	--------------	------

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>2017年で創立50年目の節目の年を迎え、この間約10万人の若者が輝かしい未来へと歩いていくのを支えてまいりました。進学教育、職業教育を受けた卒業生は様々な分野のプロフェッショナルとして活躍しています。難波高等経理学院からスタートしたエール学園は、真の国際人を育成するという大きな目標の下で時代の流れを一早く読み取り、社会の要請に応えるため教育理念や指導方法を進化させてきました。本学園が次のステップに進もうとしている今新時代に相応しい第四世代の理念を策定し、より一層優秀な人材の育成に励んでまいります。特に第二世代の理念から第三世代の理念にかけて地域との関係性が豊かになってまいりました。その切掛けは留学生が地域清掃をいただいたことでした。清掃することによって地域の方から「有難う」という言葉がかけられ、それによって留学生のモチベーションが上がるという善循環がはじまりました。まさに日本人との共生の場が生まれてきたのです。このような外国人同士の共生の場が広がれば、世界がきっと平和になると考え留学生を「平和の使者」と名付けました。第四世代のミッションはこのような考え方のもとにつくられました。そしてこれを世界に広げるために50年計画を策定いたしました。</p> <p>■エール学園50年計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2017年～2027年 専門職大学となり、各国のトップ大学と連携 ●2027年～2037年 日本語ネット教育・ネット試験事業の研究を深め世界一となる ●2037年～2047年 エールのメンタリングの研究を深め世界に普及 ●2047年～2057年 エールのビジネスインターシップを世界で実践 ●2057年～2067年 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・北アメリカ・南アメリカで日本語分野、メンタリング分野、実践ビジネス分野でネットとリアルの大学をつくる 	<p>第四世代の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ■世界を意識したミッション 国境を越えて学ぶ人々が夢を実現し、「平和の使者」となり世界で活躍できるグローバル人財を育成する ■地域を意識したビジョン 学ぶことによって人々が互いに高めあって、多文化共生の地域づくりに貢献する ■新価値創造を意識したバリュー 「なりたい自分、つくす自分」という価値を大切にしながら新しい価値を創造する ●バリュー1：「なりたい自分の実践＝与えられた人生の役割に生きる」 ●目的：与えられた人生の役割に生きるために、自分の強みを把握して意欲を高める ●成果目標：学生の与えられた人生の役割を果たすために心から納得できる進路選択ができるようにする ●組織の行動指針：行力・知力・感力・活力・場力 ●バリュー2：「つくす自分の実践＝グローバルな世界で人のために支援できる人財となる」 ●目的：グローバルな世界で自分の強みを活かして、他者支援できる人財となって意欲を高める ●成果目標：グローバルな世界で学園の組織を活かして、顧客との関係を豊かにする ●組織の行動指針：行力・知力・感力・活力・場力 ●各号館になりたい自分つくす自分の実践を通して「留学生は平和の使者となる」メッセージボードを掲げている

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	明確に定められている	理念目的は年間事業計画と名刺に明示されており、育成人材像はホームページや案内書に明示されている	理念の定着を非常勤講師にも広げることが課題である。メンター講座に非常勤講師も参加しだした。	学校案内・名刺・ホームページ・50年計画・長期募集計画・中期計画・年度事業計画・室計画・個人目標
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	理念の実現のために自己実現、他者支援の項目をメンタリングの考え方を活用して研修を実施。	例えばビジョンの実践事例として地域清掃をカリキュラム化し地域の方から「有難う」という言葉を頂いている	理念の実践事例をもっと増やすこと。特に社会貢献型のインターシップを増やすことが、解決に結びつく	学校案内、ホームページに理念を掲げ、職員の行動指針の実例をホームページに書き込む
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	毎年中期計画を見直す際に理念目的と照らし合わせている。	見直す時期を毎年10月、11月にスケジュール化している	時代が大きく変化するため9年間の長期経営計画を策定。3年間の中期計画も策定し、毎年変更している	長期経営計画、中期経営計画
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されている	4	本校の理念をメンター思想と呼び、メンター養成講座を内部、外部の人を集めて実施している	全メンターにメンターの講座を受講してもらっている。理念をホームページにも広く公表している。	理念の具現化を浸透するために成果と意欲の尺度で成長を図るYPM指標の活用をスタートさせたので、この活用をさらに進める必要がある	メンタリングブック（理念編、実践編、資料編） ホームページ テキストメンター講座 YPM指標総括表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念目的を抽象的になるのを避けるため、行動指針に落としとして実効性のあるものになっている。特に中心の理念であるメンタリングの観点からカリキュラムを毎月検証している。メンタリングは成果性と意欲性を求めるが、これを具体化するためにそれぞれを主観と客観で診断したYPM指標の運用をスタートさせた。これにより理念がより具体的に浸透をし始めている。	理念の具体的な方向として、成長を5つの力の観点から常に検証している。コロナで単年度では制約を受けているが、従来より場力の観点から地域社会との連携を大切にしているので、学生の地域清掃や学生の駐輪対策は地域からの評価も高い。また区役所との連携や自治会との連携も深まり行事に参加する回数や共同事業も増えている。

*YPMとは「パフォーマンスとモチベーションを指標化し個人・クラスの成長を数値化している指標」です。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

1-2 (1/1)

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	学生の人生全体を考えたキャリアデザインを指導し、その上でキャリアアップを図っているため、学生たちのモチベーションも高い	キャリアデザインを一層深掘するために、研修を続けメンター同士で自主的にパワーポイントで教材作成を行っている	まだメンタリングを活用した理念の実践力は先生によってばらつきがある。そのバラツキをなくすためにシラバスの共有に取り組んでいる。	メンタリングブック 各種研修テキスト。 メンタリングシステム (コンピュータ化)

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念の具体化をメンタリングの手法で実践しているが、学生の人生の着地点を明確にさせながら指導しているため、進学実績と就職実績は高い。教育理念の浸透に向けた取り組みが組織的に実施できている。	メンタリングをベースとしてキャリアデザインの授業シラバスが各学科で共有して特徴のある指導を標準化できるようになってきている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	東アジア・東南アジアの学生が、日本の大学・大学院で非常に高い合格実績を示し、就職率でも100%近い実績を長期間維持している	進学系では東大京大阪大、国公立コースを設け、就職系では、日本就職コースなど留学生のニーズに対応したコース設定を実施	進学系の東京阪大、国公立大学・の合格率を一層上げることと、就職系では100%就職の維持と質の高い企業の開拓	学校案内パンフレット 進学系では大学進学資料。就職系では就職先リスト、インターシップ先リスト

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
東アジアの学生は母国での就職が難しいため、日本の大学・大学院を目指す傾向が続いている。一方現地の大学卒業者が直接専門学校に入り1年で就職していく傾向も出てきた。ベトナムの国家大学・国立大学との提携が推進され、優秀な学生が集まる環境が整いつつある。コロナは終息に向かって学校運営は通常に戻りつつあるが、学生の集客では2023年度まで影響が続くので本格的な回復は2024年度を待たなければならない。	高い実績を示す学校としての中期的な目標を抱えて進めている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営の基本は、学生の成長を支援するために教職員自身が成長をすることをポイントにおいて学校運営している。そのため教職員の成長の仕組みを個人目標と連動させている。個人目標の最重要テーマに組織の目標を掲げてもらっている。近年アセアン、南アジアの学生が急増し、日本語力、経費支弁の課題が浮上してきた。今まで漢字圏の学生が中心であったため、漢字圏の学生指導の運営に力を注いできたが、今後は非漢字圏の学生指導の工夫を積み重ねなければならない。そのため JLPT、EJU 模試の開発、予習復習コンテンツの開発と精力的に開発を進めている。学校運営についてはコロナも終息に向かい、6月より全面对面授業再開、7月よりは学生のボランティア活動などもこれまで通り実施ができるようになった。</p>	<p>長期募集計画書、中期計画書、年度事業計画書、四半期計画書、室年度事業計画書、室四半期計画書、個人年度目標、個人四半期目標をグループウェアに載せて職員全体に公開し、目標の情報共有に務めている。そして四半期ごとに目標の進捗を発表し、年間目標を達成できるような仕組みをつくっている。特に研ぎ澄まされたコンテンツをつくるために進学系では東大・京大・阪大及び国公立大学・大学院の合格者を他校に比べて優れたの合格者を出せるように、就職系では質の高い学生には上場企業への就職を、学園全体としては100%就職できるように施策を実施している。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	中期計画から四半期目標まで学校の運営方針が示されている。	中期計画から四半期目標まで文書となっている。	その実現レベルがまちまちであり、シナジー効果を上げるところまで進んでいない。解決策としてミッションの共有を図る努力	中期計画、年度本部長計画、室計画、四半期計画 個人目標
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	学校運営方針は、グループウェアに載せられ共有が図られている。特に行動レベルを重視し、評価指標と連動させている	グループウェアに載っている。そして四半期ごとに評価し、賞与、昇格人事に反映させている	他の部署の人の内容をあまり見ない。解決策としてはミッションの共有を図る努力	中期計画、年度本部計画、室計画の冊子をつくって職員に配布するとともに、個人評価表を個人に渡している
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4	運営方針に基づき諸規定はある。	文書とグループウェアに載っている	特に課題は感じていない	就業規則、人事・給与規定、組織図、年間行事予定、各種会議日程、プロジェクト名、成長マップ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針はかなり精度の高いものとなっている。特に中期計画が個人目標まで落とし、ミッションを核としてぶれないで実施してきた意義は大きいものがある。次の目標は、中期計画を中心に展開していつている。	外部評価として日振協で毎年行われるアワードで西日本の専門学校中5校が選ばれているが、その中に常に選ばれており、トップの大賞もアワード大賞も4回取っている。これもミッションのレベルの高さと、事業計画がお題目だけでなく、しっかり実行されている証左ともいえる。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	5	長期計画・中期計画から個人目標まで作られている	グループウェアに掲載している	個人目標まで明示しているが、シナジー効果が出るころまで行かない	長期募集計画、中期計画、年度事業計画、四半期計画、組織図、職務分掌
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	4	四半期ごとに室四半期計画を発表し次の四半期計画を明示している	四半期ごとに四半期計画の進捗を発表するとともに、グループウェアに掲載し、情報共有を図っている	個人目標と自分のしたいことが必ずしも一致していない。ミッションの理解を進める	中期計画は毎年見直している。

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画を毎年個人目標と連動させている。四半期計画は四半期ごとに全室が成果を発表し、関係者が講評すると共に次の四半期の計画を発表する。これによって経営計画を3か月ごとに見直しをすることになる。	ミッション・ビジョン・バリュー・行動指針の共有に努めており、朝礼でも行動指針について意見を述べ合う機会を持つようにして、事業計画の根幹を共有する努力をしている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イアの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-6-6 運営組織図はあるか	4	組織図は毎年1月発表され4月から実行。	文書としてある	本部長・室長とのコラボレーション。解決策はミッションの言葉としての共有と実践の共有	組織図、行動指針
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	4	理事会・評議会の議事録はとっている。事業計画、予算は理事会・評議会で承認し、長期は常務会で、日常の運営は本部長会議で行っている。	多くのプロジェクトがありその責任も明確になっている。通常の組織で行う業務とプロジェクトで行う業務を分けて効率化を図っている	プロジェクトも成功しているところとそうでないところがある。解決策としてはリーダーの選定	プロジェクト名、リーダー名、会議日程を書いた資料
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	4	組織の構成員は、役員、本部長、室長、一般職員、講師となっており、責任も明確になっている	職位は組織図に明記され、職務は職務分掌に明記されている	時代の変化が激しいため、組織が毎年のように変わることが課題	グループウェア上に組織図、職務分掌、人事関連資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営組織は役員と本部長と室長のコラボが少しずつ前進しており、指揮命令系統も明確になってきている。今後組織をより進化していくためには、ミッションを共有から共鳴そして共進化するところまでもっていかなければならない。	行動指針についての想いを朝礼で職員が発表しており、その内容を各職員は共有している。またデジタルの時代に突入したことを受けて、デジタルトランスフォーメーション（DX）を組織に定着する計画である。そのためシステム部門を舞い込んだプロジェクトを推進し、エール学園の特徴をだすため、学生を「平和の使者にする」という想いを大切にDXを推進している。

最終更新日付

2023年7月1日

記載責任者

崎村 真

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	人材の育成について内部では行動指針の発表を通じてミッションの理解を促進し、外部では研修参加で新しい知識の習得に努めている	オリエンテーションマニュアル、メンター教育マニュアル（メンタリングブック）は出来ている	ミッションを学内に本当に定着させるには場を整えなければならない。（場力）5S運動の定着が課題。	メンター教育の各種資料
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	4	人事考課制度はミッション・運営方針と連動している。特に評価と個人目標を連動させており、公平さは保たれていると考えている	人事考課表がある	課題は室目標と個人目標の整合である。評価表を作成して時間がたつため、ミッションとの整合が取れていないことが明確になりつつある。	人事規定
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	4	昇進・昇格制度は人事の規定の中で文書化されている	人事規定	特になし	人事考課表
2-7-12 賃金制度は整備されているか	4	賃金制度は正職員、講師、アルバイトまで整っており評価制度とも連動している	各種評価表	人事評価の在り方と人材育成をより整合させるために評価の成果と意欲の割合を、より意欲に焦点を当てる。	賃金体系

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-7-13 採用制度は整備されているか	4	採用、不採用、雇用、解雇の基準書はないが、ミッション・ビジョン・バリュー・行動指針に基づいた採用、雇用手順は確立されている	採用、雇用マニュアルがある	ミッションを理解する人の採用は増えているが、その後のミッションを深堀する施策がまだまだ不十分である	人事規定
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	4	教員の増減は室単位で把握している。職員の増減は人事部門が把握している。教職員の増減は予算との絡みが多く経理とも連携している。	非常勤教員の増減は毎年度に大阪府への届の中で確実に把握をしている。	非常勤採用を各学科単位で実施して予算計画で全体管理をしているが、採用についての全体管理を進める必要がある。	特になし

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事制度、賃金規定は整備されているが、実際の運用には、制度の未整備なところや未成熟な部分を補うのがビジョン・ミッション・バリュー・行動指針だと考えている。それに照らしあうのがベストと考える	室目標評価と個人目標評価をつなげたものになっているのが特徴

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	4	意志決定システムは役員・本部長・室長が担っている	理事会、評議員会、経営会議、本部長会議、募集会議、各種プロジェクト会議で意思決定を行っている	意思決定のスピードを上げる努力をしているが、まだまだ迅速な決定が行われているとはいえない	各種会議一覧
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	4	組織についての文書は特にないが、意思決定システムのポイントは各種会議等で制度化されている。またグループウェアも活用されている。	意思決定プロセスは、会議の議事録で明確になっており、議事録作成は徹底できている。	会議は充実しているが、実行レベルが不十分である	会議議事録
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3	意思決定の階層・権限等は会議等で明確になっている	各種文書はないが、会議録が意思決定のプロセスを明確にしている	意思決定のプロセスを会議等で分かる状況にしている。本年新卒採用を実行し、エールのミッションに共感を覚える人材を採用	議事録

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
会議体を中心として、意思決定プロセスはが十分機能している。意思決定のプロセスの見える化もされている。	時代の変化と共に意思決定のスピードがもとめられるが、グループウェアの活用は全体の意思決定システムとしてスピードを上げることができる。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	3	基幹システムとして、学校法人会計がベースとなったスクールリーダーやICSが存在する。会計と募集システム、教務システムが今は中心	情報システムの概要や構成図はある。根拠は各システムを予算管理や募集情報の共有、出席管理、模擬試験の処理に活用している	エールの情報システムの課題は、情報共有が必ずしも成果と連動していない。本年よりメンタリングをシステム化した。活用が課題	基幹システム概要、構成図、メンタリングシステム図

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
基幹システムとグループウェアの活用で情報システム化による業務効率化ははかられているが、今年度より取り組んでいるDXは業務の効率の視点からどのようにイノベーションを起こすかの視点で取り組んでおり、一歩進んだ情報システム化に取り組んでいる。	基幹システム、グループウェアの活用やメールの活用は定着しているが、新情報システムの開発（DX）に着手し、本格的にクラウドコンピューティング時代に対応しだしている

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	崎村 真
--------	-----------	-------	------

基準 3 教育活動—専門課程（日本語教育学科部分）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日本語教育学科は文化教養専門課程に位置づけられるが、他の専門課程と違い、語学の基礎教育のウエイトが高い。また全てが留学生であることもその特徴である。教育目標は正しく位置づけられ授業活動を実施しているが、ここ数年の日本を含めたアジアの変化に影響を受け、入学する学生の進路が高度化し、また、多様化し、その対応として大学院進学コース、東大・京大・阪大進学コース、国公立大学（理系学部/文系学部）進学コース、一般進学コース、日本企業就職コースと、コースごとによる人材育成を実施している。また 2013 年度よりベトナムを中心とした東南アジアの留学生も増加しており、多国籍化が進行している。それゆえ、それぞれの留学目標達成のために、コース内容の改定、非漢字圏学生への対応、教授法の見直しなどを教育活動として教職員全体で進めている。</p> <p>授業評価は日本語運用力のレベルに合わせて、安定して実施している。教員の授業力向上については、研修や自己点検などによって、成長を支援し、その仕組みの体系化を進めている。</p> <p>2020 年度からの 2 年間はコロナの影響で学生の入国が制限され、また国内においてもコロナの感染防止のため授業が全面オンライン、オンラインと対面を組み合わせた混合授業を実施し、「学びの継続」に重点を置いて、教職員一丸となってオンラインの授業の効果的な実施のために LMS、ZOOM 等の新たな教育ツールの習得とその利用、工夫を行った。</p>	<p>■多様な目的別のコース運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学コース ・東大・京大・阪大進学コース ・国公立大学進学コース ・一般進学コース ・日本企業就職コース <p>■全クラスに本校独自のメンター制度を導入</p> <p>本校では、クラス担任をメンターと呼んで、全クラスにメンターを配置。メンタリングという共通の教育手法、指導方法をマスターした人員を配置して、クラスの運営、キャリアデザインの授業、進路指導、生活指導を実施している。</p> <p>■YPM 評価の開発・運営</p> <p>教育目標、育成人材像への達成度合いを把握する方法として YPM 評価法を開発し、導入している。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
--

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	5	正しく方向づけられている。大学院進学コース、東大・京大・阪大進学コース、国公立進学コース、一般進学コース、日本企業就職コースと多様なコースを準備している。	日本語教育学科の教育目標、育成人材像を文書で示し、学校の教育理念と国の国際化の政策、高等教育機関の国際化の要請との整合性を常に図っている。	政治や経済、国際情勢等、取り巻く環境の影響を受けやすいので、国内外の情勢にいかによやく対応するかが重要である。コロナ以降の入国制限はその最たるものであった。	学校案内パンフレット ホームページ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
方向付けについては、年度ごとの見直しをしており、時代の変化に応じて見直しを適時図っている。またその方向性を外部にも明確に示している。	当学科は国の政策、特に入国管理行政と深くかかわっており、このことへの対応抜きに学科運営ができない。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	5	目標の到達レベルは可能なレベルとして具体的なカリキュラムとして設定されている。	学期ごとに定められた目標レベルと評価を設定している。	年度ごとに入学者の日本語のレベルが変化することとそれに対応したクラス設計が必要	クラス別カリキュラム レベル別コースデザイン 成績評価資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科の教育期間を勘案した目標レベルは適正に設定されている。年度ごとに入学者のレベルに変化があり、人間性等のありようも時代の変化とともに大きく変化しているが、年度ごとの見直しを適正に行っている。	留学生 30 万人計画に伴って大学、専門学校の留学生受け入れの変化に対応してきた。また近年の高学力、高学歴、非漢字圏の学生の増加への対応を行っている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	5	カリキュラムは、体系的に編成されている。	学科別カリキュラムが作成されてその評価を毎学期行っている。また目標別にコースの区分けも行われている。	コースの区分けの多様化に着手したが、それを担う人材の育成が急務	シラバス コースデザイン発表資料
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	4	現地の業者、同業界での意見交流、出口である大学等との意見交流や情報収集で意見を反映する仕組みとなっている。	現地姉妹校、現地代理店、進学先からの意見くみ上げの仕組みあり。また大専各での留学生委員会の委員を担当している。	業界レベルの意見反映はあるが、研究レベルでの交流は弱い。	特になし
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	5	概ね体制は明確になっている。	学科内でコース別に役割分担がされている。	コースの多様化に伴うコーディネーターの人材の育成	役割分担表 専任、コーディネーター、講師の配置表
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	5	年度ごと、前後期の学期ごとに見直しを行っている。	学期ごとのコースデザイン検討会とコース（レベル別）反省会を実施している。	特になし	コースデザイン発表資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本語教育学科は、初級から超上級まで一貫したカリキュラムを体系的に編成する体制を持ち、また定期的に見直していると判断できる。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	5	各科目の位置づけは明確にされている。	コース別、レベル別、クラス別カリキュラム表が作成されている。	科目設計は適正に行われている。日本語以外の科目の設定も強化している。	カリキュラム表 レベル別、クラス別科目一覧表
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	4	各科目のシラバスは明確に作成されている。	シラバス一覧表が作成されており、使用教材等の検討会も行っている。	指導項目は明確にされているが、指導方法について講師ごとのばらつきが若干ある。	カリキュラム表 科目別目標一覧、及びシラバス表
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4	時間ごとのシラバスは学期当初明確に定めている。	指導項目は一時限ごとに作成されている。	指導方法の講師ごとのばらつきの標準化が必要。とりわけ経験の浅い教師の育成は急務。	カリキュラム表 科目別シラバス表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
科目の設計、シラバスの設計は精力的に実施されているが、多数の非常勤講師間の指導方法のばらつきが存在している。また非漢字圏の学生への対応がカリキュラム編成上の課題となっていたが、ここ数年の教職員の努力で、その授業での指導技術は向上してきている。	ニーズの高度化及び多様化と多国籍化の深化。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	5	学期末に学生による授業アンケートを実施している。	年2回の授業アンケートを実施し、更にメンターによる学生面談で授業の状況を確認している。	学生による授業評価は実施しているが、講師自身による自己評価が必要である。	授業アンケートおよび集計表
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	十分な評価体制がある。またこれを学期ごとに見直す反省会、コースデザイン報告会を実施している。	授業アンケート・メンターによる学生面談・授業見学や講師面談を実施している。教務と人事部門による評価体制がある。	教務による授業見学と講師面談（フィードバック）の強化と改善に取り組んでいるが、多くの非常勤講師が在籍するので、タイムリーにフィードバックする仕組みが必要。	授業アンケートおよび集計表 講師についての査定表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価は適切に実施している。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか	5	十分な要件を持つ教員を確保できている。	法務省出入国在留管理庁が定めた「日本語教育機関の告示基準」を満たしている。	専門性の要件確保は認可条件に沿っている。学科の目標としての人材育成の指導力の強化に努めている。	官報 別表第一 (法務省告示校として掲載)
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4	概ね対応できている。	法務省出入国在留管理庁が定めた「日本語教育機関の告示基準」を満たしている。	専門性の要件確保は認可条件に沿っている。学科の目標としての人材育成の指導力の強化に努めている	官報 別表第一 (法務省告示校として掲載)
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	4	適宜把握し評価している。	年間評価で個別に把握している。	専任職員会議等での情報交換 課題提出物の分析強化	講師個別面談記録と査定表
3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	実施している。多くの教員を巻き込んで日本語の教材コンテンツを作成しており、これが専門性の向上に役立っている。	教員研修の実施 定期試験や副教材作成の指導 模擬試験、週間テストのコンテンツ作成。	OJT研修の強化 試験作成等を通じた講師の専門性の継続的な強化。	研修会資料 模擬試験作成会議資料 週間テスト作成関連資料

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-16 教員の教授力 (インストラクション スキル)を適宜把握し、 評価しているか	4	適宜把握し、評価している。	学生評価とフィードバック 教務による授業見学	教員相互の授業見学などの OJT研修の強化。メンタリン グ研修の強化	学生評価 授業見学記録
3-15-17 教員の教授力 (インストラクション スキル)を向上させる 研修を行っているか	4	研修を実施している。	学期ごとのコースデザイン 発表会の実施	教員相互の授業見学などの OJT研修の強化。メンタリン グ研修の強化	コースデザイン発表会 資料
3-15-18 教員間(非常勤 講師も含めて)で適切 に協業しているか	5	適切に協業している。	学期開始時のレベル別講師 会の実施。開講中の授業打合 せや定期試験作成打合せの 実施。学期終了時の反省会 の実施。連絡ノートの義務化	専任講師により協業状況に ややばらつきがある。	レベル別講師会資料 反省会会議録 連絡ノート
3-15-19 非常勤講師間 で適切に協業してい るか	4	適切に協業している。	学期開始時のレベル別講師 会の実施。開講中の授業打合 せや定期試験作成打合せの 実施。学期終了時の反省会 の実施。連絡ノートの義務化	担当レベルにより協業状況 にばらつきがある。	レベル別講師会資料 反省会会議録 連絡ノート

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か	5	明確である。	法務省「日本語教育機関の告示基準」に記載された資格条件などを満たす者を採用している。講師の格付けの資料がある。	資格要件と経験要件は明確だが、人間性と指導力はある時期を観察しないとわからない。	講師格付け表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員確保と研修は精力的に実施している。またオリジナルコンテンツの開発、模擬試験の開発に多くの講師、職員を巻き込むことにより、この活動が講師の専門性向上の核となっている。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	明確に基準をもって実施している。	成績評価基準や成績表がある。	特になし	学則 成績評価基準 成績表
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	単位互換の基準が明確にある。	基準表の存在	特になし	学則 単位互換基準表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価は基準を明確に定めており、現状においてよく実施されている。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	明確である。	学期ごとの授業のオリエンテーションにて目標を明示している。	特になし	オリエンテーション資料
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5	カリキュラム的には十分な教育内容である。	日本留学試験・日本語能力試験対策授業及びエール学園オリジナル模擬試験や週間テストを実施している。	特になし	カリキュラム表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本留学試験および日本語能力試験の指導体制はしっかり組み立てられており、日本語能力試験に関しては団体申込が可能な体制を整えている。なお日本語科目以外の指導も授業に組み込んだコース制を設けている。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

基準 4 教育成果—専門課程（日本語教育学科）—

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日本語教育学科は、留学生に対する日本の高等教育機関への進学予備教育という性格をもっており、教育成果は日本の大学院、大学、専門学校への進学率である。進学予備教育としての教育成果は着実に上がっている。それゆえ退学率も低い。現在は特に大学院進学コース、東大・京大・阪大進学コース、国公立大学（理系学部/文系学部）進学コース、一般進学コースと目標別にコースを分け、進学実績のアップに努めている。また、母国の4年制大学卒業生向けに日本企業就職コース（専門課程デュアルビジネスコースへの進学、または当学科卒業後の就職を目指すコース）を設置し、就職希望者の支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■留学生の進学が教育成果の中心である。毎年高い進学実績を誇る。近年、海外の大学を卒業して、この学科に入学し、直接就職を目指す学生が増えつつある。 ■近年就職を目標に留学する大学卒の留学生が増えつつある。この受け皿として日本企業就職コースを設置し、当学科卒業後に直接就職するため、日本国内の企業等と連携して教育を行っている。 ■海外の大学との提携、特にベトナムの上位の大学との教育提携が進んでおり、日本語教育機関として位置づけられる日本語教育学科を持つことにより、語学半年＋専門教育半年などの多彩な留学交流を実現してきた。

最終更新日付

2023年7月1日

記載責任者

濱田久美子

4-18 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-18-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	就職対象学科ではないが、多様化する学生のニーズに応えるため、「日本企業就職コース」を設置している。	専従職員コーディネーターを設置し、メンターとともにサポートを行っている。	就職対象学科ではないので、他部署の協力を必要とする。	過年度実績データ
4-18-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	就職先、就職者数の情報を明確に把握している。	就職に関する情報を教務、その他関連部門に報告、共有されている。	特になし	過年度実績データ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
直接就職を目指す学生に対応するため、就職フェア等の情報を適宜学生に周知し、職員による引率を行っている。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-19-3 資格取得率の向上が図られているか	5	向上が図られている。	カリキュラムへの取り入れ、早朝演習やN1対策、週間テストなど、授業の補強を行っている。	模擬試験、エール学園オリジナル週間テスト等の実施と分析、学生へのフォロー	日本留学試験・日本語能力試験模試、エール学園オリジナル週間テストの結果分析表
4-19-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	明確に把握している。	全員の情報を把握し、経年比較を行っている。	全国評価との連動。	日本留学試験・日本語能力試験模試、エール学園オリジナル週間テストの結果分析表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本語教育学科では、日本留学試験と日本語能力試験の受験指導を行っており、その向上策と情報の把握はよく行われている。日本留学試験は入学大学との関連データの蓄積、日本語能力試験は取得率の全国比較の向上が求められている。	日本留学試験と日本語能力試験の模試を実施することにより、資格取得の一助としている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-20-5 退学率の低減が 図られているか	5	図られている。	学校プロジェクト（Lプロジ ェクト）として実施してい る。	退学率ゼロに向けた取り組 みの強化	Lプロジェクトの会議資 料
4-22-6 入退学者数とそ の推移に関する情報を 明確に把握しているか	5	明確に把握している。	在籍管理はほぼ完全に実施 され、毎年在留管理優良校 （不法残留率3%以下の適 正校）に認定されている。	学生個別情報の管理強化	出入国在留管理庁定期 報告、在籍管理の週間資 料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減の取り組みは日本語学校のもっとも重要な項目であり、この取 り組みは学校をあげて実施しており、成果が上がっている。	留学生の場合は、在留管理と重なっている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-21-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	地域社会での支援活動について評価を受けている。	在校生の活動への評価は把握できているが、卒業生の海外での評価はあまり把握できていない。	卒業生の進路先での状況の積極的な情報収集。	在校生の地域交流の資料（HPなどで）
4-21-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3	できる。	進学先から学業状況や卒業後の就職状況の報告を受けている。	OBの組織化の強化。進路先での評価の積極的な収集。	個別情報
4-21-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	3	在校生の評価の場はあるが、卒業生について十分把握していない。	外部発表は一部のみ組織的に取り組んでいる。	学内発表の外部評価の取り組みを考える。 卒業生から報告を受ける仕組みを考える。	特になし
4-21-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	3	一部可能である。	外部発表は一部のみ組織的に取り組んでいる。	学内発表の外部評価の取り組みを考える。	特になし

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
在校生へは社会的な活動を地域交流の位置づけで実施しており、広がりを見せているが、卒業生への働き掛けや情報の把握は組織的にできていない。	特になし

最終更新日付 2023年7月1日 記載責任者 濱田久美子

基準 5 学生支援（日本語教育学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日本語教育学科は、海外の留学生を直接受け入れる学科であり、多国籍な言語での進学支援、生活支援は充実している。男子寮、女子寮の整備もされている。また生活支援としてアルバイト紹介を含めた指導体制も充実している。保護者との連絡、母国にいる卒業生のフォローなどは、国を隔てた状況で困難が付きまどっているが、よく着手しているといえる。</p> <p>2021年度は、コロナの感染対策と学びの継続が優先順位が一番に来ており、コロナ完成防止の対策実施と長期休暇中も含めた万が一の場合の安全確認体制、相談体制の充実を心がけて、学生の安全・安心の確保を実行している。またコロナでアルバイトが減少していること、母国でもコロナの影響で保護者の収入に打撃があり仕送りが減少している状況に多くの留学生があるので、学費の延納、分納を月単位まで認めて学びの継続に努めた。</p>	<p>■進路指導体制の充実 本校独自のメンター制度を整備。各クラスにクラス担任となるメンターを配置し、進路指導だけでなく、生活指導も行っている。</p> <p>■各国語のサポートの充実 就職指導、進学指導ともに、きめ細かな指導を充実させるために、中国語話者、ベトナム語話者のメンターを配置している。</p> <p>■アルバイト指導の充実 留学生にとって重要となるアルバイトを紹介するとともに、適正なアルバイトを実施できるような管理体制を取っている。</p> <p>■事故対応、病気対応の充実 留学生全員に24時間のフルサポートの損害保険に加入しており、事故の加害、被害対応、病気入院対応を充実させている。</p> <p>■生活指導の充実 3日間連絡のない欠席が続くと家庭訪問を実施している。また保護者や留学センターへも連絡し、連携指導ができる体制を取っている。</p> <p>■コロナ感染防止と学びの継続 保健所の指針に従った消毒薬の設置、社会的距離の確保、マスク着用の啓発及び学内での徹底。緊急事態宣言下のオンライン授業の実施。 相談体制、生活上の注意事項の啓発の継続的な実施 経済的に困窮する学生への学費の延納、分納の許可。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-22-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5	進学指導体制はよく整備され、有効に機能している。	専従の進路指導とメンター（クラス担任）の配置 メンター対象の進学・就職研修会	メンターと進路スタッフとの連携の強化。 専従スタッフの後継の育成。	メンタリングブック 進路実績資料及び受験報告書
5-22-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	実施している。	日本企業就職コースの学生対象のガイダンス	就職部門との連携が重要である。	ガイダンス資料
5-22-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4	実施している。	メンターによる面談を実施している。	就職担当者と教務担当者との連携をより一層強化する。	進路調査票と面談記録（スクールリーダー）
5-22-4 就職の具体的活動（履歴書の書き方など）に関する指導を実施しているか	5	日本企業就職コースの授業内で実施している。	日本企業就職コースの学生対象のガイダンスの他、授業内で指導を実施している。	特になし	ガイダンス資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
進学指導体制は有効に機能している。2021年より「日本企業就職コース」の改編を行い、就職部門との協力体制の下で就職指導体制の強化を進めている。	特になし

最終更新日付

2023年7月1日

記載責任者

濱田久美子

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-23-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5	体制は整備され、有効に機能している。	生活指導の人員の配置 メンター（クラス担任）の配置	より専門性を有する相談事項の外部協力者との連携の強化が必要である。	面談記録（スクールリーダー）
5-23-6 学生相談室を開設しているか	5	相談室を設置している。	学生相談のスペースは確保している。	教室、校舎の有効利用と共に、プライバシーを尊重し、安心して相談できる場づくりを検討する。	特になし
5-23-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	5	学生相談全般についての担当者を配置している。	生活指導担当者の配置 メンター（クラス担任）の配置 法律相談、事故対応の体制が充実している。	若いメンターも多くいるので、研修体制、経験の深いメンター、管理職と縦横の連携が重要である。	特になし
5-23-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	5	整備され有効に機能している。	生活指導担当者の配置 メンター（クラス担任）の配置 進路指導担当者の配置	より専門性を有する相談事項の外部協力者との連携の強化が必要である。	特になし

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本語学校の場合は日本での生活に不慣れな学生の適応の問題を扱っている ので、生活相談の体制は十分に構築されており、事故対応時の弁護士との連携もできている。心理・医療の分野のカウンセリングの必要性が増しており、学園の産業医の協力を得ている。	対象が留学生であること

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-24-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	5	アルバイト紹介を全員対象に実施している。また学費の分納にも対応している。コロナ時代の対応も実施している。	アルバイト指導の人員と部署を配置。 学費の分納(月払い)の実施。	多くの学生がアルバイトを探しており、順調に収入を得ることができようさらにアルバイト紹介を強化する。	アルバイト説明会。 アルバイト先の定期紹介。 学費の分納の案内
5-24-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	3	有効に機能している。	入学時の学内奨学金制度	特になし	奨学金の実績
5-24-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	5	学費分納制度は概ね有効に機能している。 コロナの影響にも対応し月払いまで実施しており、学びの継続に有効に機能している。	学生の経済的負担を軽減できる分納制度を導入した	新型コロナの影響から回復するまで現在の緊急対策を継続する必要がある。	募集要項 学費分納の案内

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
日本語教育学科は全員が留学生であり、生活は仕送りとアルバイトに支えられている。アルバイトには時間の制限があるので、経済的側面に対する支援や状況を把握する体制を整え、勉学に集中できるよう努めている。またコロナの経済的な影響への対応を実施している。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-25-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	支援体制がある。	入学後の健康診断の実施と結果に基づく支援 メンター（クラス担任）によるキャリアデザイン授業の実施	心理面の病気のサポート体制の強化。	健康診断実施関係書類
5-25-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	5	機能している。特に新型コロナウイルスの感染についての健康管理を重点対策として実施している。	通常の発病時の相談、病院への引率及び事後支援。またコロナについての保健所との連携。感染防止対策の徹底。	新型コロナウイルスについての対応は数年重点的に継続をする必要がある。	面談記録（スクールリーダー）
5-25-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	4	健康相談などに専門に応じる医師がいる。	産業医を選任している。	特になし	学則

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
	対象が留学生

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-26-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	整備されているがコロナ以降は中断していたところ、2022年度より再開した。	ボランティアやイベントの掲示及びホームルームでの紹介。課外活動や文化祭の実施。	全体に定着できるよう、地域や外部団体との意見交換により充実化を図る必要がある。	課外活動・ボランティア活動参加資料 実施時のビデオや写真

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
従来、課外活動は本校のミッションである「なりたい自分、つくす自分」の実践として重視しており、全校生徒の近隣での清掃活動、自治会のイベント、市内のボランティア活動などを展開している。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-27-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	生活支援はよく実施されている。	学生寮の運営。民間宿舎の紹介など。	安価で良質な民間宿舎の開拓	学校案内パンフレット

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本語教育学科の学生はすべてが海外から来るので、生活環境支援はインフラとして実施しているが、より一層良質な宿舎の開拓は必要である。	入寮対象者はほとんど海外から来る留学生

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-28-17 保護者と適切に連携しているか	5	連携している。	保護者への定期連絡 生活面や学業面で懸念される事象が発生した場合は、保護者へ迅速に連絡をしている。	SNS での状況報告の連絡	保護者宛資料 保護者向け出席率確認 サイト

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者との連絡は、意識的に実施しており、保護者が学生の出席状況を確認できる WEB サイトを運用しているほか、3ヶ月に1回「出席・成績状況」を報告している。また不定期でも必要な時は随時実施する体制を構築している。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-29-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3	同窓会は組織されているが、活動が十分とは言えない。	活動は一部のみで継続できていない。	OB会の組織化と企画	特になし
5-29-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	2	あまり機能していない。	なし	OB会の組織化と企画	特になし

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業後の支援体制はほとんど未着手の状態である。とくに海外へ帰った学生との連絡の維持をどうするかなど課題は多い。	留学生であるため、卒業後や進学後に母国へ帰国する学生も少なくない。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境（学校全体）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>■全教室に最新の ICT 設備を導入（みらいスクールステーション）し、教育効果の向上を目的とした設備の導入も十分達成できている。</p> <p>■定期的なメンテナンス、修繕計画も立案し年度ごとに計画的に実施している。避難訓練、消防計画の実施、防災への取り組みも先進的に実施している。</p> <p>■学外実習、インターンシップについては小項目の点検のように十分に整備し機能している。</p>	<p>■ICT 設備の全教室配備を実施。 コロナの感染拡大防止のため授業を LMS、Zoom 等を活用した全面オンライン、オンラインと対面を組合わせた混合授業を実施</p> <p>■施設・設備の定期的な修繕計画の立案 施設・設備は年度ごとに計画を立てて実施している。</p> <p>■就職系学科の企業インターンシップの充実 就職系学科は、地域貢献型、キャリアアップ型、採用選考型の 3 種類のインターンシップと 100 社以上の企業と連携している。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

6-30 (1/1)

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
--

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-30-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	施設・設備は、教育上、必要性に対応できるよう整備されている。	一部の授業を除き、学習に専念できる環境を整備している。	より、学習に専念できる環境となるようなクラス編成を検討する。	教室配置図
6-30-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能している。	日次的な点検を行い、劣化に備えメンテナンスを行っている。	特になし	点検報告書
6-30-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	施設・設備の更新に関する計画を計画通りに更新している。	組織変更などに伴う、変更事項を適時更新している。	特になし	報告書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日次的なメンテナンスや点検を行っている。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-31-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	5	短期、長期を問わず、外部の引き受け機関と連携し、体制と環境を整備している。	学科ごとに教育効果の上がる実習、インターンシップを引き受けている。	学科や内容によっては、希望者のみとしており、外部団体との連携体制の強化を図る。	インターンシップ概要
6-31-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	5	実習、インターンシップへ参加した場合は、その実績を把握し、教育効果を確認している。	参加した学生から報告書及び、レポートを提出される。	より、教育効果が出るまた、確認できるしくみについて、検討する。	報告書、レポート

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科やコースの学習内容と実習、インターンシップの内容がより密着した内容にて導入できるよう、また今以上に、就職につながる多くの業界、業種の企業開拓が必要である。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-32-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	5	防災に対する体制を整備し、有効に機能させている。	定期的な訓練及び、緊急時の対応について体制を整えている。	特になし	防災訓練実施要綱
6-32-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	5	災害を起こす可能性のある設備・機器の情報や災害発生時の対応について情報を伝えている。	防災に関する計画は対応マニュアルを作成している。	特になし	防災訓練実施要綱
6-32-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	5	実習時等の事故防止の体制を整備している。	避難経路、火災報知機、消火器などの整備を行っている。	特になし	防災訓練実施要綱
6-32-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	5	災害が起きた場合に備えた保険に加入している。	入学時に全学生を対象に、保険に加入している。	特になし	保険加入の案内書類

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-32-10 防災訓練を実施しているか	4	防災訓練を不定期に実施している。	年間カリキュラムの関係により地域の消防署の協力のもと不定期にだが全学科の学生を対象に実施している。	定期的に行うことができる様、年間カリキュラムの改善を検討する。	防災訓練実施要綱

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2022年度は、校外学習の一環として学科の全学生が防災センターを訪問し、知識の習得と体験を行った。今後も防災に関する意識付けを強化する。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	濱田久美子
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校のミッション・ビジョン・バリューについては、ホームページ、パンフレットを通じて本校に入学を希望しておる学生に周知徹底している。学外への広報は主にホームページを通じて行っており、今後も内容の充実を図っていく。</p> <p>留学生の募集では特に海外のエージェント、国内の日本語学校と信頼関係を強化し、質の高い学生募集を行っている。特に海外では上海事務所、韓国事務所、ベトナム事務所を設置して、きめの細かい入学説明、入学選考を実施するなど、募集・受け入れに関しては、選考基準、入学試験を実施し、厳正な募集を実施している。就職系学科、進学系学科ともに、進路先に合わせたコースの設計がされており、きめ細かな受け入れ態勢を実現している。近年は質の高い学生の確保の施策として、奨学金制度（学費の割引）とレベルの高い大学との提携を進めている。</p> <p>海外からの留学生受け入れについては出入国在留管理庁の審査もあるため、本校の選考基準、入学試験だけでなく、上記審査をクリアし、交付された者が海外から留学できるシステムになっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ レベルの高い留学生の受け入れの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外のトップレベルの大学との提携の推進。ベトナムのハノイ貿易大学、ハノイ大学、ホーチミン人文社会科学大学など。 ・ 国別の事情に合わせた優秀な学生の奨学金制度（学費の割引）の実施。 ■ 留学生の在籍管理において一貫して法務省出入国在留管理庁より「在籍管理適性校」の認定を受けている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	豫城聖子
--------	-----------	-------	------

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-33-1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	適正に行われている。	理念・目的をホームページ、パンフレットに明確に明記し、厳正な選考基準、入学試験で募集活動を行っている。	特になし	学校ホームページ 学校案内パンフレット 募集要項
7-33-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	4	多言語表記し、便宜を図っている。	留学生募集にあたっては、日本語だけでなく多言語での募集を行っている。	すべての言語に対応できるわけではないので、優先順位をつけ、ニーズの高い多言語表記にする。	学校ホームページ 学校案内パンフレット
7-33-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	4	体制がある。	専門の部署があり、志望者等の問い合わせ・相談に多言語で対応している。	あらゆる国籍の人に対応できるわけではないので、他部署の支援も得ながら、多言語対応をしている。	学校ホームページ
7-33-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	4	各学科とも定員充足が進んでいる。	入学者数	学科の改編により希望者のニーズに合わせた学科づくりを行う。	ない。

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集・受け入れ体制については、募集要項・選考基準等で明確にしており、周知の面ではほぼ十分だと言える。 留学生を多数受け入れていることから、ありとあらゆる外国人にエールの募集要項をわかりやすく説明する仕組みが必要である。	各学科とも募集定員を満たす募集活動となっており、現在優秀な学生確保に重点を置いた募集活動を実施している。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	豫城聖子
--------	-----------	-------	------

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-34-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4	正確に伝えられている。	学校案内パンフレットやホームページに実績を掲載し、入学希望者に周知している。	特になし	学校ホームページ 学校案内パンフレット
7-34-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3	持っている。	志願者の入学動機調査を実施している。	認識の根拠はあるが、より実績を伝える工夫が必要。	ない

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の進学実績や就職実績等の教育成果は、学校案内パンフレットやホームページ、チラシにて正確に伝えられている。	留学生は口コミ力が高く、この口コミへの情報の提供が工夫のいるところ。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	豫城聖子
--------	-----------	-------	------

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-35-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	適正かつ公平な基準に基づき行われている。	選考基準に基づいて、書類審査・入学試験により公平な基準でもって行っている。	留学生の入学を希望する学生に関しては、出入国在留管理庁の審査方針に沿う必要がある。	学校案内パンフレット 募集要項 ホームページ
7-35-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	4	ほぼ正確に把握している。	グループウェアを活用し、各学科の入学選考に関する情報と推移を把握している。	全学科とも合格通知後のキャンセルも多数あり、漏れなく正確に把握し、共有を図る。	ない

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は根幹をなす部分であるので、適正かつ公平な基準に基づいて行っており、厳格に実施している。海外からの入学選考に関する推移も随時現地試験情報を共有し、判定を迅速に下している。	留学生の入学選考にあたって、不法残留者を多数発生させている国については、特に厳格な選考基準を設け、質の高い学生確保に努めている。また語学力について厳正に審査する必要がある、その対応をしている。

最終更新日付	2022年7月1日	記載責任者	豫城聖子
--------	-----------	-------	------

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-36-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	5	妥当なものとなっている。	人間力を高め、学生の人生を支援する教育内容に妥当な学納金である。	留学生を多数受け入れていることから、国際的な経済状況、為替状況によって負担感が変わりやすい。	学校案内パンフレット 募集要項 ホームページ
7-36-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	正確に把握している	業務上当然の知識として学納金に関する情報を正確に把握している。	特になし	学校案内パンフレット 募集要項 ホームページ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金に関しては、非常に敏感な部分であるので内訳、金額、支払い期日など多言語でわかりやすく示している。	特殊な事情としては、海外からの留学生を多数受け入れているため為替レートの変動により、学費の負担感が大きく変わることである。

最終更新日付	2022年7月1日	記載責任者	豫城聖子
--------	-----------	-------	------

基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>2018年度において負債ゼロを達成。財務状況が大きく改善されている。今後の課題としては、施設の拡充と定員増を長期的な政策と進め、2025年度までの長期計画が立案をされている。</p> <p>2020年よりコロナ禍での留学生の入国制限で国全体の留学生数が減る中で厳しい経費削減の努力を行い、引き続き経常収支が黒字を達成している。コロナの影響は2023年度まで続く予定で、2024年度より学生数がコロナ前に復活する見込みである。</p> <p>現在2024年4月開校予定でエール学園 ICT 校を建設中である。</p>	<p>2022年11月時点での学生数は1148名、前年同月が1441名で293名の減となった。</p> <p>2022年度決算値は収入が予算対比で101%、支出が102%収支差額が0.5%という結果であった。</p> <p>次年度の学生募集は、2022年10月水際対策の大幅な緩和により、外国人留学生の来日が増えており回復の兆しが見えている。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-37-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	2015年～2020年の連続の大幅黒字の達成により、借金ゼロの財務基盤となった。	6年連続の収支差額10%超えの達成。	新校舎建設中。	財務諸表全般
8-37-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	5	月次決算を行っているのと、四半期ごとに財務諸表を出し、銀行にも提出しているこの習慣は20年以上続いている	3月末に予算書を作成し、9月末に下期予算修正を行い、これを30年以上続けている。	資金の把握としては留学生の未収金の管理が重要である。	財務諸表全般 多くの管理会計資料がある

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の本科生事業が上向きになっており、本科事業を中心とした収益構造になってきており、中期的に黒字体質の財務状況となっている。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-38-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	5	創立50周年に合わせて新たな長期計画、中期計画、年度計画を立案して、予算もこれを円滑に推進している。	学生の募集定員も目標達成と予算管理の目標達成。	学生の学納金の円滑な回収。未収金対策の実施。	中期計画書 年度事業計画書 四半期事業計画報告書 年間予算実績対比表 年間資金繰り表
8-38-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	5	月次決算と四半期予算修正により予算は計画的に執行されている。	5期連続の黒字の決算の実施。	将来の大規模設備改修、教育投資の準備。	入学資料 月次予算実績対比表 予想実績対比資金繰り表 四半期貸借対照表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
留学生30万人計画の順調な推移と本校の順調な学生募集が継続しており、高い収支差額を目標として予算を立案し、それを達成する状況にある。 2022年度においてはコロナの影響で学生数が激減したが、経費削減の努力で黒字を達成している。	2019年は1500名超を達成。2020年は1475名。2021年は1441名。2022年は1148名。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-39-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	5	決算における監査は、適切に行われている。	会計監査人による監査を行っている。監事にも監査をお願いしている。	特になし	決算資料
8-39-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	会計監査の責任体制、会計監査の実施スケジュールは適切に行われている。	監事は本校の内容に精通しており、年3回ほど細かい内容まで監査されている	定期的に監事に監査をお願いしているが、もう少し回数を増やすほうがいい。	監査実施スケジュール

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
月次決算、四半期ごとの予算修正、年次決算と予算管理はシステムが安定している。また経理人材も安定している。	特になし

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-40-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	学校関係者評価に合わせて財務情報は公開している。	ホームページにおける学校情報の開示。	特になし。	財務諸表
8-40-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	学校法人会計に合わせた財務情報を公開している。	同上	特になし。	財務諸表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開は、学校法人会計の基準に基づいた諸表を決算後の公開している。	毎年決算終了後に財務情報をホームページに公開している。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>① 督官庁の大阪府教育庁私学・大学課、法務省出入国在留管理庁が定める規定・基準に沿った学校運営を行っている。</p> <p>② 個人情報については、その取り扱いに全職員が細心の注意を払いまたその旨も当校ホームページ上でも公開し明確化している。</p> <p>③ 自己点検・自己評価は、学校関係者評価を実施し、より透明性の高い評価を実施し、学校の改善に努めている。第3者評価を早期に実施する計画立案が課題となっている。</p> <p>④ 情報公開は、財務状況、自己点検・自己評価、学校関係者評価を公開している。</p> <p>⑤ 教職員の労務関係も法令に基づいて就業規則等を整備している。2016年度以降は常用労働者数が50名以上となり、産業医の設置など法令に基づいて設置をし、ストレスチェックにも取り組んでいる。</p>	<p>■ 本校が留学生に特化した専門学校として留学生の在籍管理には特に注意を払って学校運営をしており、一貫して「在籍管理適性校」の認定を法務省出入国在留管理庁より受けている。</p> <p>■ 近年の「働き方改革」の方針に合わせて、教職員の労働環境の改善に努めている。</p> <p>■ 大阪市「女性活躍リーディングカンパニー認証」 2020年11月1日に大阪市より『女性活躍リーディングカンパニー』に認証された。</p> <p>■ 大阪府「男女いきいき・元気宣言事業者登録」 2020年12月10日大阪府の『男女いきいき・元気宣言事業者』として登録されました。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-41-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	監督官庁の大阪府私学課の基準に基づいた学則編成を行い、準拠した運営を行っている。	課題と思われる時には、私学課と相談しながら、法令や設置基準を確認している。	留学生の在籍管理には継続的に重点施策として実施する。	学則 出入国在留管理庁の告示
9-41-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	5	全学を上げて、留学生の在籍管理の健全な運営に努めている。また留学生の法順守の啓発も力を入れている。	在籍管理の適性校としての認定。	上記と同じ。	上記と同じ。

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準や法令順守という観点ではクリアしていると考えられる。当面は本校が留学生に特化した専門学校として、国の留学生受入れ施策、入国管理施策と関係法令の遵守、特に在籍管理には十分な注意が必要である。また、今後の留学生送り出し国の経済の発展に伴う顧客サービスの向上要望には積極的に対応が必要である。	同左

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-42-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	在校生と過年度学生のデータについて、帳票類には、鍵のかかる部屋に保管し、また電子データは権限付与者のみ利用できる。	鍵付の部屋のロッカーへの保管と権限付与者の明確化	毎年膨れる過年度生のデータの整理と保管及び電子データの保管年限の整備	指導要録 入学願書 成績・出席状況表 卒業台帳
9-42-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	当学園ホームページにも記載し、広く個人情報に関して啓蒙している。	個人情報管理規定に準拠を明示している。	新入職員や新入生（特に留学生）に個人情報保護の重要性を伝える機会を設ける。	個人情報管理規定

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護の重要性については、その対策や啓発活動から判断して、十分だといえる。	個人情報の管理規定もホームページを通して、広く一般に公開されており、あとは留学生の出身国と日本とで個人情報の扱いや認識に大きな違いがある場合は、日本のルールを理解させていく必要がある。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-43-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	4	自己点検・自己評価の実施は定着してきており、学校関係者評価へと継続する形が完成している。	自己点検・自己評価、学校関係者評価の情報開示。	学校関係者からの指摘事項の改善に努める。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書
9-43-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	4	自己点検・自己評価は外部関係者評価へと制度をアップしており、数年先の第3者評価を準備している。	自己点検・自己評価及び学校関係者評価の関連資料等の精度のアップ	第3者評価の準備。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書
9-43-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	伝わっている。	自己点検・自己評価及び学校関係者評価の継続実施。	自己点検・自己評価、学校関係者評価の意味を職員へ周知する。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「自己点検・自己評価」に関して、学園として本格的に取り組みだしている。2015年度より学校関係者評価を実施するなど、将来の第3者評価の準備が進んでいる。	特になし。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-44-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	公開している。	ホームページ。	特になし。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書
9-44-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	ホームページへの公開の方針が確立されている。	ホームページ	特になし。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書
9-44-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	伝わっている。	ホームページ掲載までのルーチンが確立されている	関連資料等の公開の範囲についての改善が必要。	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「自己点検・自己評価」に関して、学園として本格的に取り組みだしている。2015年度より学校関係者評価を予定するなど、将来の第三者評価の準備が進んでいる。	「自己点検・自己評価」「学校関係者評価」がほぼ定着した時点で「第三者評価」へも対応していきたい。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木田明美
--------	-----------	-------	------

基準 10 社会貢献（本部部分）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>エール学園は 2017 年に創立 50 周年を迎え、これに合わせてこれまでのミッション・ビジョン・行動指針を発展させ、新しい学園理念を打ち出すに至っている。この中で「地域を意識したビジョン」で「学ぶことによって人々が互いに高めあって、多文化共生の地域づくりに貢献する学園となる」ことを内外に宣言した。これまでも地域貢献は学園の教職員・学生全体で取り組み、地域との共生に努力をしてきたが、これからはより積極的な位置付けで、「多文化共生社会」実現のリーダーシップを取っていく。</p>	<p>① 当校は海外からの留学生が多く在籍しているため、各種団体からの通訳・翻訳の要請に対して積極的な協力をしている。また、小学校の外国人児童の支援にも協力している。地域交流の一環として学校周辺道路の清掃や、不法駐輪自転車の整理も実施している。</p> <p>② 留学生のインターンシップとして「地域貢献型インターンシップ」を授業の一環で実施しており、多彩な地域貢献を実施している。このインターンシップが地域の多文化共生の事業の推進役となっている。</p> <p>③ 津波災害時に、近隣住民の緊急避難場所として提供することを申し出て、浪速区役所より「浪速区防災協力事業所」の認定を受けている。</p> <p>③ 浪速区は、転入・転出の割合、共同住宅の割合が市内で最も高く、それに比例して町会加入率も市内で著しく低い地域である。つまり、「わが街意識がない」「行政の取組にも関心がない」というコミュニティとしての問題がある。地域の行事の担い手が不足する中、エール学園の地域に密着した学園作りは、浪速区が抱えている課題解消の担い手になりつつある。少なくとも、留学生は地域に潜在するマンパワーである。</p> <p>2020・2021 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でボランティア活動、地域貢献型インターンシップのほとんどが中止となった。</p> <p>2022 年は、新型コロナウイルス感染防止に気を遣いながらの一年間とはなったが、地域の清掃活動は継続して行った。学生は、毎週 2 回有志による地域清掃を実施し、職員は、月 2 回の難波中公園、月 1 回の新今宮駅周辺、難波駅周辺一斉大清掃には、欠かさず参加した。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	3	区役所、町内会への貢献活動、留学生就職促進のための地域産業の連携を強化している。	各種町内会活動への参加。大阪府、市の活動への参加。企業連携ネットワークの活動。	より積極的な地域の多文化共生の取組の推進 新型コロナウイルス感染防止もため活動が制限された。	イベント時の写真
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	5	大阪商工会議所との連携でパソコン講座などを実施。留学生の地域貢献インターンシップの実施など。	・通訳翻訳科の留学生がボランティアで通訳翻訳をしている。 ・小学校の外国人児童への支援など。	留学生 1000 名の学校としての地域の多文化共生の取組の推進。	パンフレットなど。
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	5	地域に開かれた学校の評価を地域自治会から信頼をされている。また社会貢献活動企業への学校施設の提供を心掛けている。	国際交流祭へ地域住民を及びするなど地域の方へ開放した専門学校作りをしている。またユネスコなどの活動へ教室をお貸ししている。	現状において課題はないと考えている。	実施イベント等
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	5	海外のトップ大学との教育協定を推進している。また積極的に海外の使節の学校訪問を受け入れている。	ベトナムトップ大学であるハノイ貿易大学、ハノイ大学、ホーチミン人文社会科学大学との協定を進めている。	ベトナムで進めている施策を他国へも広める。	協定書 招聘状

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	5	監督官庁関係と連携を取りながら、防犯・保健・在留管理等の適切な対応と情報伝達を行っている。	大阪府私学課・大阪出入国在留管理局・大阪府警国際捜査課・浪速区役所等との人的つながりがある。	学生の法令順守と防犯という観点で、特に留学生に対して自国との違いと国内における社会問題を理解させる工夫をしたい。	入管定期報告書 「適正校」通知書 放置自転車指導マニュアル
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	4	区政会議に参加するなど地域との連携で重要な社会問題への取り組みを実施している。 上町台地の歴史的価値の啓発活動、大阪ミナミの活性化に精力的に取り組んでいる。	区政会議への参加。 上町台地の歴史的シンポジウム、ミナミ活性化委員会の月2回の活動など。	重要な社会問題が、緊急的に発生した際に迅速な対応や措置がとれる体制作りをより強化したい。 引き続き上町台地やミナミの人々と連携を強めたい。	区政会議の議事録 上町台地のシンポジウム資料 ミナミ活性化の活動記録

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
エール学園は留学生が 1100 名を超え、全国で有数の留学生受入れの専門学校となっており、内外の注目を集めるようになっている。エール学園は創立より地域との共生を掲げており、今後はより積極的な役割を果たすことが求められている。	留学生の不法滞在や不法就労なども大きな社会問題となっているが、当校では、その予備軍（長期欠席者等）に対して、事前の対策を検討実施しており、出入国在留管理庁からも「適正校」としての通知を受け取っている。 長くまちづくりを実施してきたため、エールは地域の方々から応援をいただいている。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	地域の清掃活動や落書き消し・夏祭り等の行事・繁華街における外国人観光客への通訳等の場に学生を参加させている。	地域清掃や大阪水上バス・戎橋商店街・大阪コンベンション協会の通訳業務の実施	地域の多文化共生の実現に向けたより積極的な取り組みの推進。	活動時の写真
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	5	学園を通しての依頼内容については、逐次状況把握並びに学生から情報を収集している。	担当教職員による状況の把握に努めている。	より積極的に活動状況を広報したい。	活動時の写真

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の「なりたい自分、つくす自分」という方向性に沿って、学生のボランティアへの積極的な取組姿勢と学校側の協力・支援体制がうかがえる。	中央区・浪速区内においては、区役所・商店街・各種団体からの協力要請に対して、全面的に協力し官民互いに良好なる関係を築いていると思う。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献（教育現場部分）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>エール学園は 2017 年に創立 50 周年を迎え、これに合わせてこれまでのミッション・ビジョン・行動指針を発展させ、新しい学園理念を打ち出すに至っている。この中で「地域を意識したビジョン」で「学ぶことによって人々が互いに高めあって、多文化共生の地域づくりに貢献する学園となる」ことを内外に宣言した。これまでも地域貢献は学園の教職員・学生全体で取り組み、地域との共生に努力をしてきたが、これからはより積極的な位置付けで、「多文化共生社会」実現のリーダーシップを取っていく。</p>	<p>①当校は海外からの留学生が多く在籍しているので、各種団体からの通訳・翻訳の要請に対して積極的な協力をしている。また、小学校の外国人児童の支援にも協力している。地域交流の一環として学校周辺道路の清掃や、不法駐輪自転車の整理も実施している。</p> <p>②留学生のインターンシップとして「地域貢献型インターンシップ」を授業の一環で実施しており、多彩な地域貢献を実施している。このインターンシップが地域の多文化共生の事業の推進役となっている。</p> <p>③津波災害時に、近隣住民の緊急避難場所として提供することを申し出て、浪速区役所より「浪速区防災協力事業所」の認定を受けている。</p> <p>2020・2021 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でボランティア活動、地域貢献型インターンシップはほとんどが中止となった。</p> <p>2022 年は、新型コロナウイルス感染防止に気を遣いながらの一年間とはなったが、少しずつボランティア活動を再開することができた。前期は様子見の状態であったが、後期は、地域の祭りにも参加することができた。</p> <p>2023 年 5 月 8 日に、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した以後は、地域の祭りや行事もコロナ前の規模で開催されるようになり、学園へのボランティア依頼もひっきりなしにある。日本語教育学科は、外部のイベントの参加者はまだ少ないが、昨年度から続けている地域清掃（有志）については累計でちょうど 100 名になった。</p>

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4	広く教育機関、企業・団体、地域との連携や交流を図る取り組みを行っている。	すべての学科で他との連携したプロジェクトを導入している。	より多くの団体との連携が図れるよう学科の内容を広報するなどし、理念に賛同する団体を開拓をする。	特になし
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	4	本科で培ったノウハウを活かした附帯教育事業を行っている。	パソコン講座を大阪商工会議とタイアップして実施。	特になし	附帯教育案内
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	4	学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と一部、連携している。	外部団体の活動の場として、通常授業のない時に提供している。	特になし	特になし
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4	東アジアの教育機関と連携し、学生の受け入れを行っている。	聴講生制度を整備し、相互の教育効果をあげるべく受け入れを行っている。	提携校を増やす	提携書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	4	重要な社会問題について、大専各の留学生委員会へ参画の上、啓蒙活動を行っている。	環境問題に関するリサイクルをはじめ、学生が巻き込まれる可能性のある犯罪に関する情報や予防策について、啓蒙活動を行っている。	企業との連携によりタイムリーな啓蒙活動を検討する。	特になし
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	4	地域活性や環境問題に関する取り組みを行っている。	インバウンドビジネスに関する取り組み、落書消し、廃棄物、ごみ分別、資源再利用に関する取り組みを行っている。	取り組みをより徹底するべく活動について、検討する。	廃棄物管理資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域の活動内容やニーズをより探り、これまで以上に貢献できる内容を提供できるように努める。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	全校を上げて、ボランティア活動を奨励、支援している。	年間実施の報告書	コロナ禍でほとんどの活動が中止となった。 新たな形を模索中である。	ボランティアについての各種報告書
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	5	ボランティア活動の状況を把握している。	活動内容をレポートなどで報告するようにしている。	特になし	レポート

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全学の職員が本校のミッション「つくす自分」を業務の重要項目として取り組んでおり、学生の活動参加は目標を立てて実施している。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	木村多恵子
--------	-----------	-------	-------